

(日本語訳 文責 WCT-JAPAN)

2018/11/15 World Curling Tour website より  
<http://www.worldcurl.com/post.php?postid=2234>

## アジアのカーリング発展の拠点となる WCT-JAPAN 設立



ワールド・カーリング・ツアー（WCT）は、本日、1億2,700万人の日本国民が関心を寄せるカーリング競技の競争力を高め成長させるため、WCTの日本運営組織であるWCT-Japanの設立を発表しました。北海道北見の藤澤五月らがオリンピック銅メダルを獲得したことで、1998年の長野冬季競技大会以来続いていたカーリングへの関心が高まっていました。

WCT-Japan ディレクターの Gerry Geurts の下、WCT-Japan のチェアマンとして青木学氏が、ビジネス関係のバイスプレジデントとして札幌の佐藤浩氏が就任します。

ディレクターの Geurts は次のように話しています。

「国内でも海外でも、日本で開催されるカーリング大会に視聴者は大きな関心を持っていることが、ウェブサイトのアクセスやテレビ、またその視聴者から伝わってきている。ファンが応援しているチームを世界中でフォローすることができるよう、日本語のウェブサイトを含め日本の存在感を示すことは自然なことである。」

北米やヨーロッパなどの海外でプレイする日本チームが増えていることで、国内の大会だけでなく海外の大会にも興味が集まってきています。

長野オリンピック冬季大会の遺産である軽井沢国際カーリング大会は、2014年に、また、2016年にはどうぎんカーリングクラシックもワールドカーリングツアーとなり、いずれもマスターシリーズとして日本で海外チームと競い合えるようになりました。

マスターズシリーズに加えて、いくつかの大会がWCTのチャレンジャーシリーズとして過去数シーズンにわたって御代田、盛岡、帯広で開催され、青木チェアマンとのパートナーシップのもと今後の発展に向けてWCT-Japanのチームも強くなっています。

WCT-JAPAN チェアマン 青木学氏は、次のように語っています。

「ワールドカーリングツアー ジャパン (WCT-JAPAN) は、ワールドカーリングツアーの日本組織として正式にスタートしました。

WCTは日本についてこれまでヨーロッパや北米で開催されていたWCTの大会と同様に管理します。さらに、日本のカーラーが、世界トップクラスのカーラーと競い、交流する機会はこれまで以上になるでしょう。また、日本のカーリングファンは、近くのカーリング場で試合を見る機会が増えていくことでしょう。

こうしたことから、私たちは以下のコンセプトとモットーを持って活動していきます。  
『カーリングが より多くの人に愛され地域に密着した生涯スポーツ、また競技スポーツとして発展し、その地位を確立する』

私たちは、日本のカーリングを発展させ送り出すために、皆さんを招待したいと思います。

これからも皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。さあ、皆でカーリングを楽しんでいきましょう！」

WCT-Japanは8月に開催された大会から運営開始し、女子は韓国のキムミンジ選手、男子は日本の岩井真幸選手が“どうぎんカーリングクラシック”で優勝し、続いて“帯広ICEゴールドカップ”では臼井慎吾選手が優勝しました。

御代田での男子チャレンジャーシリーズでは、神田順平選手が優勝しました。女子のチャレンジャーシリーズも続く予定です。また、12月20日から23日に開催される軽井沢国際カーリング選手権で、多くの世界最高峰のチームが見られる予定です。